

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		アーカスプロジェクト参画事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-02 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているのか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
地域活性化を目的に県事業の「国際芸術文化交流拠点整備構想（アーカス構想）」を誘致。平成6年度に試行、翌7年度から「アーカス構想パイロット事業」として本格的に展開が開始される。平成12年度から「アーカスプロジェクト」として現在に至る。	1 県，市，関係機関からなる実行委員会（県事務局）へ負担金を支出し，下記事業を展開する。 ・現代アーティストの招へい及び制作支援，活動発表会の開催（レジデンスプログラム） ・一般向け，子ども向けアートイベントの開催（地域プログラム） ・小学校へのアーティスト派遣事業の実施（地域プログラム） 2 アーカスプロジェクトの運営に際して，市は主に以下の支援を行う。 ・作家制作の場としてもりや学びの里を提供 ・市内イベント活動等の運営支援 ・事業広報活動
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
1 茨城県主催のアーカスプロジェクトに参画することにより，市民に対し芸術文化活動の体験機会を提供するとともに，地域の文化活動の推進と市のイメージアップを図る。 2 アーティストとの交流機会を提供することで，子どもたちの豊かな心と感性を育てる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供し，市民が芸術や文化を気軽に親しめるようにする。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・市民のアーカス事業に関する認知度を高める。 ・芸術への関心を高め親しみやすい芸術・文化を促進する。 ・県，アーカス事務局，市の三者協賛事業であるが故に情報の共有が困難であったり，指示にタイムラグが生じたりしてしまう。 ・仕事の割り振りや範囲が曖昧になってしまっている。	通年：守谷市のHPにバナーを設置し閲覧による認識を高める 4月～8月：招聘アーティスト募集・選考 世界各国に招聘アーティストの募集をかけ、選考を行う 9月：オープニングレセプション 10月～12月：招聘アーティストによる創作活動 11月：オープンスタジオ
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
・広報活動の幅を広げる。 ・市民に密着したプログラムやイベントを企画する。 ・県，アーカス事務局，市で話し合いのタイミングを，年間何度か設ける。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	アーカス事業25周年の節目を迎えるため，県事業としても新たな試みやイベントを計画しており，負担金の増額希望がある。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
・クラウドファンディング事業により、自身で資金を調達し、資料閲覧棚を作成した。 ・1年生の作品展と称し、市内小学1年生がアーティストと一緒に創作活動を行ない、その作品を市役所に展示する地域プログラムを開催	・アーカス事業自体や現在までの事業内容等を振り返り、今後のアーカス事業の方向性を確認する会議を開催。 ・アーティストインレジデンシーの事業として、3組4名のアーティストを招聘。 ・平成29年度から新たに、エクスチェンジレジデンシープログラムを実施し、台湾と日本のアーティストの交換留学制度を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
事業に参加した市民の数（人）	1, 799. 00	1, 819. 00	1, 900. 00	1, 900. 00	2, 000. 00
	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	・アーカス事業計画会議やアーカイブスに関する会議等が行われたが、いずれも一般市民ではなくアート関係者向けのイベントが多かったため成果として停滞が見受けられた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	・さらに市民参加型、特に子どもに向けたイベント開催を計画して、イベント内容の見直しを計る。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	5,000	6,019	4,500	4,500	4,500
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	5,000	6,019	4,500	4,500	4,500
正職員人工数（時間数）		0.00	268.00	193.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,099	791	0	0
トータルコスト		5,000	7,118	5,291	4,500	4,500

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		芸術祭事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和52年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進		市民協働	共催
予算科目コード		01-100401-18 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和52年当時、守谷には文化的イベントが無く、それを不満に感じていた町民有志7名が発起人となって文化協会を設立し、自らの手で芸術祭を開催した。	文化協会との共催により、以下の事業を行う。 ①美術展 会場：中央公民館 ②菊花展 会場：市役所中庭 ③若い芽のコンサート 会場：中央公民館 ④生花展 会場：中央公民館 ⑤生け花体験教室 会場：中央公民館（生花展と同時開催） ⑥芸能祭 会場：中央公民館 ⑦お茶会 会場：中央公民館（H28・29年度は休止）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
・市民の文化芸術活動意欲や市民交流を促進し、喜びや生きがいを感じてもらう。 ・文化芸術活動を通して、市の魅力を発信する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供し、市民が芸術や文化を気軽に親しめるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
美術展において、高齢化により年々出品数、出品者が減ってきている。また、菊花展においても高齢化により出品数が減ってきている。美術展、菊花展を行う場所が同じ場所のため、来場者も横ばい状態である。展示を行う場所を再検討する必要がある。	9月中旬 芸術祭実行委員会 10月中旬 芸術祭出品者会議 10月29日～11月5日 美術展Ⅰ期 11月 6日～12日 美術展Ⅱ期 11月13日～19日 美術展Ⅲ期 11月 1日～11日 菊花展 11月12日 若い芽のコンサート 11月23日 芸能祭
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
美術展について、開催する場所を中央公民館から支援センターの市民ギャラリー等に変更し、新たな来客者を増やす。広報紙、市ホームページに掲載し、新たな出品者を増やす。また、守谷高校美術部に出品をお願いする。 菊花展について、開催する場所を市役所中庭から人の往来の多い、守谷駅西口広場等に変更する事により、来場者が増えれば出品者も増えると思われる。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	ポスター印刷や消耗品の必要最小限に抑えており、削減は困難であるため、現コストを維持する。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の取組（評価、課題への対応）
美術展や菊花展において、高齢化により年々出品数、出品者が減ってきている。 展示を行う場所を再検討する必要がある。	芸能祭ポスターを作成し、各公民館、近隣市町村へ掲示依頼を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
出品・出演者数（人）	648.00	564.00	600.00	600.00	600.00
来場者数（人）	9,649.00	8,514.00	6,098.00	9,000.00	10,000.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	美術展の作品者が減少している。 菊花展の出展者も高齢化進み運搬等に難があり出展数が減少しているが、来場者の中には菊花展を楽しみにしている市民もいる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	中央公民館で１１月に美術展を行ったが、集客数が減ってきている状態なので、美術展Ⅱ期、Ⅲ期について、開催場所、時期の見直しを考え、集客を見込まれるイオンタウン守谷や市民交流プラザで時期については６月を予定している。 若い芽のコンサート等の周知を再度、小中学校に願います。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	78	73	60	75	75
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	78	73	60	75	75
正職員人工数（時間数）		0.00	131.00	147.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	537	603	0	0
トータルコスト		78	610	663	75	75

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		守谷市美術作家展事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和60年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-19 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
町内のプロ作家，茨城県美術展覧会入選者の作品を，町内で見られるようにするため，昭和60年度に開始された。	市内在住・在勤，市出身など，守谷にゆかりのある美術作家の作品展を開催する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（市民に対して） ・市にゆかりの作家を知ってもらうことで，郷土に対する愛着を深める。 ・美術鑑賞の機会を設け，芸術活動への関心を高める。 （作家に対して） ・他の作家や市民との交流を促進し，創作活動の意欲や郷土意識を高める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供し，市民が芸術や文化を気軽に親しめるようにする。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・市民ギャラリーでの展示において看板等宣伝効果のある掲示物を掲げることが困難であるため周囲の認知度が低い。 ・来場者の年齢も，出品者の年齢も高齢化してきている。 有効なPR手段や新たな出品者の開拓方法を検討する必要がある。	10月：第1回実行委員会議 12月：第2回実行委員会議 1月：出品者会議 2月24日～3月4日：美術作家展展示期間 3月4日：反省会
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
・掲示物を増やし，市内外に関わらず広報活動を様々な手段で行っていく。 ・可能な限り市内小中学校等に声を掛け，若い層の出品者を開拓していく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	ポスターおよびハガキ等必要最低限の経費を経常しており，これ以上の削減の余地がない。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度を取組（評価、課題への対応）
美術作家展での展示において看板等宣伝効果のある掲示物を掲げることが困難であるため周囲の認知度が低い。 来場者の年齢も、出品者の年齢も高齢化してきている。	美術作家展作品展示について、作品の展示数も多くなったことにより、以前の展示のレイアウトでは難しく、出品者にも意見を聞き、より良い作品展示ができた。 市民ギャラリーにおいて美術作家展が行っているわからないという意見もあったので、ステ看的他に2.3mの看板を作成し、周辺のPRを行った。 今後も出展作品が増えた場合には、現在の市民ギャラリーでは展示が困難になり、他の場所での開催も考えておく必要がある。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
出品者数（人）	56.00	60.00	69.00	70.00	63.00
来場者数（人）	997.00	915.00	740.00	900.00	1,000.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	今年度については、新規会員が工芸4名、洋画3名、書3名、写真2名の12名が増員となった。これにより、美術作家展には、昨年よりも多い69名の出品者、73点の作品を展示できた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	美術作家展以外にも美術鑑賞の機会を設け、芸術活動への関心を高める。 他ジャンルの作家や市民との交流を推進し、創作活動意欲や郷土意識を高める。 美術作家展開催を市内小中学校等に声を掛け、若い層の出品者を開拓していく。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	163	160	161	188	188
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	163	160	161	188	188
正職員人工数（時間数）		0.00	188.00	468.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	771	1,919	0	0
トータルコスト		163	931	2,080	188	188

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		文化協会補助事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和52年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100401-21 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 補助金を交付して、ふれあい美術展，芸能大会，芸術祭（市と共催），伝統文化・伝統芸能子ども教室，茶道教室，陶器市，スプリングコンサート等の文化協会の活動を支援する。
文化協会結成以前には町主催の文化事業がなく，市民の自主的な生涯学習や個性豊かな文化芸術活動を推進するには，担い手となる文化団体を支援・育成する必要があった。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
芸術文化の振興を目的に活動する守谷市文化協会の自主的な事業を支援し，市民の交流と芸術文化活動の向上を図ることで，市の活性化を目指す。 文化協会会員の経済的負担を軽減し，文化事業（美術展，音楽会，各種講座など）を継続して実施してもらう。	
（参考）基本事業の目指す姿	
芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供し，市民が芸術や文化を気軽に親しめるようにする。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・文化協会の事務に関する連絡が希薄である上に，事務作業手順等が市と協会との間で齟齬が生じているため，やりとり不安がある。 ・文化協会全体の高齢化が進んでいる。 ・文化協会の敷居が高いものとなっていて，一般の方の入会がしにくい状況となっている。 ・部会自体のジャンルが偏ったまま，決まりきったもののみとなっていて，既存のジャンル以外の文化活動が広がりを見せられない。	4月：ふれあい茶会，総会 6月：もりや夢の舞と響，ふれあい美術展 7月：芸能大会 11月：芸術祭Ⅱ期・Ⅲ期（若い芽のコンサート・芸能祭含む） 12月：クリスマスコンサート，親子で楽しむ邦楽演奏会 3月：スプリングコンサート
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・文化協会が主体となって行うイベントにおいて，市への依頼等がある場合の要請手順等を双方で再度確認し，規定化する。 ・子ども体験教室などを提案し，若年層への文化理解を高める ・入会について待ちの姿勢ではなく，積極的に宣伝する。 ・バレエや他ジャンルの部会を設立することも検討する必要がある，今後の発展には不可欠であるということを話し合う。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☒維持 ☐削減	文化協会との共催事業も現年度までの間に削減を続けてきて，これ以上の削減や事業縮小は難しいと判断したため，これ以上の削減の余地がない。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
・ 構成会員の高齢化が懸念される。 ・ 現存する部会にこだわらず、若い世代にも支持されやすい部会を作る等門戸を拡げることが大切。	・ 事業の時期や開催場所についての見直し、協議。 ・ 会長職が交代となった。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
文化協会会員数（人）	580.00	568.00	532.00	530.00	530.00
実施事業数（共催事業を除く）（回）	12.00	11.00	12.00	12.00	12.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	平成29年度の実施事業が、従来通りであったため。 若い世代が関心を持ちにくい事業ではあるが、シルバー世代には人気が高い。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	・ 例年11月に中央公民館で行っていた、芸術祭のⅡ・Ⅲ期を、時期の見直しで、6月に開催されること、および集客の見込めるイオンタウンと市民交流プラザのギャラリーで開催することにより、事業の活性化が見込まれる。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	920	920	920	920	920
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	920	920	920	920	920
正職員人工数（時間数）		0.00	33.00	25.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	135	103	0	0
トータルコスト		920	1,055	1,023	920	920